

サンゴ礁をわたる碧の風

みどり

南西諸島の中の弥生文化

■考古学セミナー

午後2時～4時(1時受付)1階ホール

第1回 10月8日(土) 木下 尚子(神户大学助教授)

「貝の道」

第2回 10月15日(土) 谷川 健一(近畿大学教授)

「民俗学からみた南西諸島」

第3回 11月12日(土) 高宮 廣衛(沖縄国際大学教授)

「考古学からみた沖縄」

第4回 11月20日(日) 館長(金関 恕)と館員

「南西諸島の中の弥生文化を語る」

●本館学芸員による展示解説

毎週日曜日と祝日 午前11時～特別展示室

関西国際空港開港記念 平成6年秋季特別展

10月1日(土)～11月27日(日)

主催／大阪府立弥生文化博物館・産経新聞社・関西テレビ放送
後援／大阪新聞・夕刊フジ・サンケイリビング新聞・ラジオ大阪

開館時間 ●午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

休館日 ●毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

所在地 ●〒534 和泉市池上町443 ☎(0725)46-2162

交通 ●JR阪和線天王寺駅から25分「借天山」駅下車徒歩7分
南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分

入館料 ●個人＝一般600円・高大生400円・小中生200円

団体＝一般480円・高大生320円・小中生180円
(団体は20名以上)

大阪府立弥生文化博物館



貝で作られたさまざまな道具(沖縄県安座間原遺跡)

紀元前4世紀ごろ北部九州で始まった弥生文化は、急速に日本列島を広く覆うようになります。一方、水田稲作が定着しなかった日本列島の北と南の地域では、縄紋文化の伝統を色濃く残しながら弥生文化とは異なる文化が栄えていました。北海道の続縄紋文化と、沖縄の貝塚文化です。

今回の特別展では、弥生文化の周辺地域として南西諸島をとりあげ、貝塚文化に代表される個性豊かな文化と、弥生文化とのかかわりを紹介します。

南西諸島は、沖縄本島を中心に鹿児島県種子島から沖縄県与那国島まで全長1200kmにわたり大小200余りの島々が連なっています。島々は黒潮に洗われ、サンゴ礁と亜熱帯性植物の織りなす碧の空間のなかにあります。

弥生時代のころの南西諸島の人々は、サンゴ礁がはぐくむ豊かな食糧資源を背景に、独自の精神文化を築き上げてきました。一方で、「黒潮の道」を通じて北は九州の弥生文化、南は台湾・フィリピンなどの南方の文化、そして、東シナ海をわたって中国文化とも交渉するなど意外な国際性をもっていました。今回の展示は、最新の発掘調査で得られた

成果を含め、南西諸島を代表する資料を一堂に集めた盛りだくさんの内容です。



不思議な文様をきざんだ貝のペンダント(鹿児島県広田遺跡)



日本最古級の文字をきざんだ貝のタブレット(鹿児島県広田遺跡)

展示構成

第1部 サンゴ礁と生活文化

ヤコウガイのさじやスイジガイの刃物など貝で作られた道具や土器・石器、食べかすなどからサンゴ礁に育まれた生活文化を復原します。また、南西諸島を3つの地域にわけ、弥生時代のころの生活文化の違いを紹介します。

第2部 謎に満ちた精神文化

不思議な文様をきざんだ貝のペンダント(貝符)や蝶の形に似た装身具(蝶形骨製品)などの飾りもの、サンゴで囲まれた墓など南西諸島独自の謎に満ちた精神世界を探ります。また、多量の装身具が発見されたことで有名な種子島広田遺跡の資料と、発見された墓の復原模型を展示します。

第3部 海をめぐる交流

弥生人が愛好した貝輪、中国からたらされた銅銭、南方文化を物語るシャコガイの斧など、物と文化の交流を通じて南西諸島のもつ国際性を考えます。島々の往来にも用いられた丸木舟の実物大模型や、ヤコウガイをちりばめた琉球王朝の螺鈿漆器の優品を展示します。

主な展示物

- 「ダンワラ古墳出土雲珠」「千々賀庚申山遺跡出土銅釧」など重要文化財10点
- 種子島広田遺跡で発見された日本最古級の文字史料である貝符
- 日本にもたらされた最古の中国銭(明刀銭) ※出品総数約670点を予定



沖縄産の貝で作られた腕輪(佐賀県三津永田遺跡)



中国からもたらされた五銖銭(沖縄県大原第二貝塚)